

主要産地における令和6年度水稲の生育状況等について 第13報 (令和6年9月3日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和6年9月3日)

道府県	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体・気象台等公表資料の抜粋)	(参考) 令和6年度の品種構成の概況
		生育状況等	年々、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育/作柄)	(9月1日現在) (全道) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政部 9月3日付) (空知) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道空知総合振興局 9月3日付) (石狩) 生育は進んでいる。(北海道石狩振興局 9月3日付) (後志) 作物の生育は平年並みか平年より早く進んでいる。(北海道後志振興局 9月3日付) (胆振) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道胆振総合振興局 9月3日付) (日高) 生育の遅速について、昨年ほどではないものの、平年より早く推移している。(北海道日高農業改良普及センター日高西部支所ほか 9月3日付) (渡島) 出穂時期の遅延がみられ、遅れは平年並みである。(北海道渡島総合振興局 9月3日付) (檜山) 生育は早く推移。(北海道檜山振興局 9月3日付) (上川) 生育はやや遅い。(北海道上川総合振興局 9月3日付) (紋別) 生育は平年並みで進んでいる。(北海道紋別振興局 9月3日付) (オホーツク) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道オホーツク総合振興局 9月3日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		(全国) 今後、冬にかけて平常の状態が継続可能もあるが、(40%)ラニーニャ現象が発生する可能性の方がより高い。(50%) (気象庁 8月9日付) 【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は日本海側でほぼ平年並、オホーツク側と太平洋側で平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁北海道気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、結露、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「なつぼし」及び「ゆめひかり」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 令和6年9月12日) (出典資料は以下同じ)
		・刈取開始の目安となる各市町村の出穂最遅期から算出した積算気温900℃到達日は、青森市、津軽中央、西北地域は9月8日～11日頃、青森内陸、東部中央地域は9月7日～9日頃、青森半島北部、青森北部、下北地域は9月11日～14日頃と予想される。また、出穂期から算出した積算気温900℃到達日は、さらに2～7日程度早まるものと予想される。(青森県 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「まっしろ」を中心とする品種構成となっている。 「青天の霹靂」「はれわたりの」が増加傾向となっている。
青森	(生育/作柄)	・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 「銀河のしずく」が、新特性、新品種に属していることから増加傾向となっている。
		(大河原) 今年は、出穂後の気温が平年よりも高く推移したことから、刈取適期に達する日数が短くなっている。(宮城県大河原農業改良普及センター 8月29日付) (亶理) (移植栽培) 出穂期は平年より5～7日早くなった。収穫時の目安(移植栽培)と比較すると、「ひとめぼれ」は、稈長、m当たり穂数、m当たり穂数とも概ね目安通りとなった。「たて正実」は、稈長が長く、m当たり穂数は概ね目安通り、m当たり穂数はやや少なかった。「つや姫」は、稈長が概ね目安通りだが、m当たり穂数、m当たり穂数はやや少なかった。(宮城県亶理農業改良普及センター 8月29日付) (栗原) 本年の栗原管内の出穂期は7月31日で、平年より2日早くなった。(宮城県栗原農業改良普及センター 8月29日付) (登米) (移植栽培) 出穂後 25日調査時点の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、m当たり穂数、1穂あたり穂数が平年を上回ったため、m当たり穂数が平年を上回った。「たて正実」はm当たり穂数、1穂あたり穂数が平年を下回ったため、m当たり穂数が平年を下回った。「つきあかり」の刈取適期予測は9月2日と、同程度か遅期に達すると思われる。(宮城県登米農業改良センター 8月30日付) (気仙沼) 管内の出穂期は8月1日となり、平年(過去5か年の平均)より3日早く、また、出穂以降の気温が高めに推移していることから収穫時期は早まると見込まれる。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 8月29日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
岩手	(生育/作柄)	・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 「青天の霹靂」「はれわたりの」が増加傾向となっている。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
宮城	(生育/作柄)	(大河原) 今年は、出穂後の気温が平年よりも高く推移したことから、刈取適期に達する日数が短くなっている。(宮城県大河原農業改良普及センター 8月29日付) (亶理) (移植栽培) 出穂期は平年より5～7日早くなった。収穫時の目安(移植栽培)と比較すると、「ひとめぼれ」は、稈長、m当たり穂数、m当たり穂数とも概ね目安通りとなった。「たて正実」は、稈長が長く、m当たり穂数は概ね目安通り、m当たり穂数はやや少なかった。「つや姫」は、稈長が概ね目安通りだが、m当たり穂数、m当たり穂数はやや少なかった。(宮城県亶理農業改良普及センター 8月29日付) (栗原) 本年の栗原管内の出穂期は7月31日で、平年より2日早くなった。(宮城県栗原農業改良普及センター 8月29日付) (登米) (移植栽培) 出穂後 25日調査時点の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、m当たり穂数、1穂あたり穂数が平年を上回ったため、m当たり穂数が平年を上回った。「たて正実」はm当たり穂数、1穂あたり穂数が平年を下回ったため、m当たり穂数が平年を下回った。「つきあかり」の刈取適期予測は9月2日と、同程度か遅期に達すると思われる。(宮城県登米農業改良センター 8月30日付) (気仙沼) 管内の出穂期は8月1日となり、平年(過去5か年の平均)より3日早く、また、出穂以降の気温が高めに推移していることから収穫時期は早まると見込まれる。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 8月29日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
秋田	(生育/作柄)	① 出穂状況調査 各地域振興局調査による出穂期は、全県で8月1日(平年並み-1日)であった。地域別にみると、東北は7月31日(同-2日)、中央では7月31日(同-1日)、黒部では8月1日(同-1日)であった。 ② 定点調査結果 定点調査結果(8月20日調査)は、「あきたこまち」(県内4地点)のm当たり穂数451本(平年比101%)、1穂当たり着粒数74.6粒(同101%)、m当たり着粒数33.44粒(同102%)といずれも平年並みであった。また、出穂期は7月30日(平年並み-2日)であった。「ひとめぼれ」(8地点)は、m当たり穂数484本(平年比107%)、1穂当たり着粒数66.4粒(同97%)、m当たり着粒数32.11粒(同95%)であった。平年と比べ、m当たり着粒数、1穂当たり着粒数ともにやや少なかった。また、出穂期は9月1日(平年並み-2日)であった。 ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
山形	(生育/作柄)	・出穂後も高温で推移していることから、刈取適期は平年と比べて、かなり早くなる見込み。すでに、早生品種の一部では刈取りが始まっている。 ・(登米状況) 8月20日時点の登熟割合は、農業総合研究センター水田農業研究所の調査圃(鶴岡市)の「はえぬぎ」で22.6%となっている。(山形県 8月27日付) (鶴岡市) 8月27日現在の登熟状況は、昨年と比べてゆっくり進んでいるが、出穂後積算気温と登熟割合の関係をもとに例年並に推移している。(山形県庄内総合支庁農業技術普及課 8月30日付) (西置賜) 出穂は、平田部「はえぬぎ」、「雪割丸」が8月3日頃、「つや姫」、「コシヒカリ」が9月8日頃となり、平年より2日程度早まった。穂期の生育は、穂数は少ない〜多い、1穂あたり着粒数はやや少ない〜多い、総穂数は少ない〜多い状況。(置賜総合支庁西置賜農業技術普及課 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「はえぬぎ」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「雪割丸」は増加傾向にある。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台気象台) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
福島	(生育/作柄)	(8月6日現在) 【農業総合センターの作柄解析試験における生育概況】 ・農業総合センターの生育調査における「ひとめぼれ」の出穂期は、本部(郡山市)が7月30日で平年より4日早く、会津地域研究所(会津坂下町)が7月30日で平年並、浜域研究所(相馬市)が7月28日で平年より6日早くなっている。 ・なお、会津地域で田植えが遅いところでは出穂が早まっている。(福島県農林水産部農業振興課 8月6日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が定着している。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
茨城	(生育/作柄)	【水戸市】(7月29日現在) (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月2日付) (5月1日移植) 出穂期は、「あきたこまち」が平年より4日早い7月11日、「ふくまるSL」が平年より6日早い7月12日、「コシヒカリ」が平年より5日早い7月22日だった。 ・登熟積算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より4日早い8月1日、「ふくまるSL」で6日早い8月11日、「コシヒカリ」で5日早い8月29日である。 (5月1日移植) 出穂期は、平年より5日早い7月26日だった。登熟積算気温による成熟期の予測日は、平年より5日早い8月3日である。 【龍ヶ崎市】(8月22日現在) (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月23日付) (4月25日移植) ・成熟期の生育について、平年と比較して「あきたこまち」は稈長が平年並、穂長がやや長く、穂数が少ない。「ふくまる SL」は稈長がやや短く、穂長がやや長く、穂数がかなり少ない。「コシヒカリ」は、稈長が平年並、穂長がやや長く、穂数が少ない。 (5月1日移植) ・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温に基づく成熟期は「コシヒカリ」では平年より4日早い8月3日と予測される。 ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
栃木	(生育/作柄)	生育概況(出穂期調査) (栃木県農政経営技術課 8月16日付) ＜早稲「コシヒカリ」＞ ・出穂期：観測史上最遅だった昨年と同じ7月23日(前年並±0)。 ・最終葉齢：塩谷町、宇都宮市は前年より少ないが、その他の地区は前年並かやや多くなった(前年差+0.1)。 ・葉色：前年並かやや遅い(前年差-0.1)。 ＜早稲「とちぎの星」＞ ・出穂期：真岡市で前年より3日早く、その他の地区は前年同前～1日遅い(前年差-1)。 ・最終葉齢：さくら市は前年並だったが、その他の地区は0.2～1.2葉多くなった(前年差+0.5)。 ・葉色：真岡市で前年より遅くならないものの、その他の地区ではやや遅い傾向(前年差+0.2)。 ＜普通稲「とちぎの星」＞(8月3日調査) ・草丈：5月下旬は前年よりやや長く(前年比+10%)、6月中旬は前年より短くなった(前年比-35%)。 ・葉色：5月下旬は、6月中旬と同程度多くなった。(5月下旬前年比113%)は少ない(6月中旬前年比108%) ・葉齢：前年より0.2～0.3葉少ない。 ・葉色：5月下旬は前年並(前年差+0.1)、6月中旬は前年よりやや遅い(前年差-0.5) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
		・今年全体の出穂率(50%)は平年より3日早い1日であった。豊熟期からの積算気温950℃(刈取の目安)の到達は、今年全体で平年より大抵に早まると予想される。(岩手県 8月29日付) ・北では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種と平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業研究センター 8月30日付) ・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)		【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並みが多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並みが多い見込み。 (気象庁) 関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。 (気象庁) 向こう1か月の雨、曇り、霧、シロロウカ、斑点病、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。

<p>干 葉</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>(生育状況等)</p> <p>【主要品種】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方は7月18日に平年より1日早く梅雨明けし、7月は平年より気温が非常に高く推移した。このため、出穂が早まり、4月20日結実「ふさおとめ」の出穂期は7月5日、「ふささがら」は7月7日、「コシヒカリ」は7月12日で、平年より6～7日程度早くまっている。さらに5月1日結実の「コシヒカリ」の出穂期は7月15日で、平年より9日程度早くまっている。 葉色は平年並みからやや濃く、「コシヒカリ」は葉長が長い傾向にある。 成熟期は4月20日結実の「ふさおとめ」が6月7日から、「ふさかがら」は8月12日から、「コシヒカリ」が8月20日頃からと、収穫は非常に早い事が予測される。なお、気象庁の1か月予報では気温が高い見込みで、成熟期が早まる可能性がある。 <p>(千葉県農林水産部 7月26日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月29日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月結実結実、セジロウカ、斑点米3%、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成で、近年「ふさおとめ」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(仮名称)の作付拡大を推奨している。
<p>新 潟</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>(生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要品種の出穂期(県平均)は、「こいしがき」で平年に比べ2日早い7月24日、「コシヒカリ」で1日早い8月3日、「新之助」で2日早い8月9日だった。 <p>(新潟県農林水産部 8月21日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月結実結実、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米3%、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ハチマキ」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、気象庁の多い「ゆめみず」及び「ゆめつばき」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(仮名称)の作付拡大を推奨している。
<p>富 山</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>(7月16日 生育観測は)</p> <p>「てんかたく」・5月2日移植の「てんかたく」の出穂期は、近年より1日遅い7月16日と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月20日頃と見込まれる。「コシヒカリ」・幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日遅い7月31日頃と見込まれる。「てんこもり」・幼穂形成期は、平年に比べ2日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ2日早い8月1日頃と見込まれる。「富富富」・幼穂形成期は、近年並の7月15日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は近年並の8月4日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県農業技術課 7月16日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月結実結実、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米3%、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿で「てんかたく」及び「てんこもり」の作付拡大が位置づけられている「富富富」が増加傾向にある。
<p>石 川</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>現在、早生は収穫期、中生は成熟中期～後期、晩生は成熟中期となっている。(石川県農林総合研究センター 8月23日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月結実結実、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米3%、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ゆめみず」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種の「ひやくまん級」が増加傾向にある。
<p>福 井</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>【「コシヒカリ」・「いちほまれ」熟成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「いちほまれ」共に、平年よりやや低い積水分になっている。(水田農業レベルアップ委員会技術普及推進部会 8月30日付) <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月結実結実、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、斑点米3%、紋枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ゆめみず」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。
<p>長 野</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>【8月26日現在の現地(平地)の生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早生品種(あきたこまち、奥山錦等)・収穫直前～収穫開始 「コシヒカリ」4月末～5月初旬頃、登熟前期～収穫直前、5月上旬頃、登熟後期、5月中旬頃、登熟中期～後期、5月下旬頃、登熟中期 本年は出穂始めから穂揃いまでの日数が長く、株内でも登熟のばらつきが大きい模様。お盆前後のゲリラ豪雨で圃場の一部で倒伏が起きた圃場もある。 お盆以降、穂もろ病が発見されるが、収量への影響は少ないと思われる。(松本県農業支援センター 8月25日付) <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
<p>滋 賀</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>(農業技術振興センター 水稲作況調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂期は、「みずかがみ」が7月21日(平年より2日早い)、「コシヒカリ」が7月24日(平年より3日早い)、「きらみずき」が8月5日であった。 成熟期は、「みずかがみ」が8月23日(平年より2日早い)、「コシヒカリ」は平年よりやや早い見込み。(滋賀県農業技術振興センター 8月23日付) <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で多い見込み。日照時間は、ほぼ平年並の見込み。太平洋側で多い見込み。(気象庁大宮気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で多い見込み。(気象庁大宮気象台)</p> <p>近畿地方は9月5日頃からかなりの高温。(気象庁大宮気象台)</p> <p>向こう1か月セジロウカ、斑点米3%の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、米産量増進に資する「みずかがみ」の作付増加がされている。
<p>兵 庫</p> <p>(生育/作柄)</p>	<p>(8月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈がやや長く、茎数は少ない。高温の影響で生育が進み、出穂は3～5日程度早まる見込みである。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて長く、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」ともに多い。主穂長さの進み方も0.5割ほど早い。 北西部では、草丈はやや長く、茎数は少ない。出穂期は「コシヒカリ」で平年より3～7日程度早まっており、地域やほ場間での生育差が生じている。 <p>(兵庫県農林水産部 8月8日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。太平洋側で多い見込み。(気象庁大宮気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で多い見込み。(気象庁大宮気象台)</p> <p>近畿地方は9月5日頃からかなりの高温。(気象庁大宮気象台)</p> <p>向こう1か月セジロウカ、斑点米3%の発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「あきたこまち」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
<p>岡 山</p> <p>(生育/作柄)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 稲(晩生種)の生育は平年並である。(岡山県病害虫防除所 8月28日付) 中生品種「きぬむすめ」は出穂が始まっている。(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当会議 8月21日付) <p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は9月4日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」の作付拡大がされている。
<p>広 島</p> <p>(作柄)</p>	<p>・8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は9月4日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 8月7日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。

(生育状況等)			
愛 媛	<p>(8月10日現在)「ひめの源」(愛媛県農林水産研究所内水田ほ場)</p> <p>- 6月21日移植、移植後50日頃の茎数は28.4本/株で、昨年と同程度。 (愛媛県農林水産研究所 8月14日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、コブメイガ、ごま葉枯病、緑葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、斑点米ねん、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」「ひめの源」への品種変更が定まらせてきている。</p>
高 知	<p>(7月情報)</p> <p>【早期稲】 - 収穫時期は平年並～やや早く、収穫は「南国そだち」は7月19日頃、「よさこい美人」は7月末から始まっており、「コシヒカリ」は8月初旬からの見込みである。 - 斑点米カメムシ類による灌漑や高温不逞による減収が懸念される。</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>【普通期稲】 - 草丈、茎数とも平年並で、全体的に穂小開期に生育しているが、葉いもちの発生が多く、ずり込み症状が見られるほ場もある。 - 芋、斑点米カメムシ類やトビイロウンカなど、減収の大きな要因となる害虫が多く、注意が必要である。 (高知県病害虫防除所 8月2日付)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、コブメイガ、ごま葉枯病、緑葉枯病、セジロウカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、斑点米ねん、紋枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>(8月22日)</p> <p>【早期水稲(夢つくし、コシヒカリ)】 - 4月下旬頃の「夢つくし」、「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べてやや早く、収穫作業は8月16日頃から本格化した。 - 倒伏はほぼ認めず、収量は平年並と見込まれるもの、登熟率が高温で経過したため、白米熟粒の発生が多い見込み。 また、イネカメムシによる吸汁害の発生も見られ、収量及び品質の低下が懸念される。</p> <p>【普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)】 - 出穂期は、6月10日頃「夢つくし」が8月8日頃、6月中旬頃「元気つくし」が8月16日頃で、平年並からやや早い見込み。 トビイロウンカや葉いもちの発生は平年より少ないものの、イネカメムシの発生が熊本地域で多く見られる。 「夢つくし」の成熟期は、平年に比べやや早いと予想され、収穫は9月中旬が最盛期となる見込み。 (福岡県農業総合試験場 8月25日付)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月フタオコヤガ、斑点米ねん等の発生が多いと予想される。 (農林水産省 8月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「元気つくし」が増勢となっている。県では「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本	<p>(作柄)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成である。「くまさんの夢」はリーディング品種として取組が今年も拡大している。</p>
宮 崎	<p>(9月上・中旬)【作物の生育状況】 - 普通期水稲は幼穂伸長期～穂ばらみ期(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月28日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「やや不良」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ388」への作柄指導が進められている。</p>
鹿 児 島	<p>(作柄)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月31日～9月30日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は9月4日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：熊及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を本報掲載情報で取り纏め。
注2：生育状況等(普通栽培等全農資料の抜粋)については令和6年8月8日18時時点での取り纏め。
注3：資料提供は平年並とした。

引用資料:

農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道農政部 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道空知総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道石狩総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道後志総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道胆振総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道渡島総合振興局 9月3日)、
農作物生育・技術情報8号(日高農業改良普及センター日高西部支所、JAびらとり、JA門別町 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道釧路総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道上川総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況調査の概要(9月1日現在)(北海道留萌総合振興局 9月3日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況(9月1日現在)(北海道オホーツク総合振興局 9月3日)、
稲作生産情報第7号(青森県 8月30日)、
令和6年度水稲生育定期調査結果No.6(出穂期等)(岩手県農業研究センター 8月30日)、
農作物技術情報 第6号 水稲(岩手県 8月29日)、
令和6年度産仙南稲作情報(第7号)(宮城県大河原農業改良普及センター 8月29日)、
令和6年度稲作情報第7号(宮城県亶理農業改良普及センター 8月29日)、
登米地域の稲作通信第8号(宮城県登米農業改良普及センター 8月30日)、
粟原の稲作通信令和6年度第8号(宮城県栗原農業改良普及センター 8月23日)、
令和6年度気仙沼・南三陸稲作情報第8号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 8月23日)、
作況ニュース(第7号)(秋田県農林水産部 8月23日)、
米づくり技術情報 No.20(やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部 山形県農林水産部農業技術環境課 8月27日)、
おいしい米づくり情報第12号(山形県庄内総合支庁農業技術普及課 8月30日)、
おきたま米づくり情報No.11(山形県置賜総合支庁置賜農業記述普及課・西置賜農業技術普及課 8月30日付)、
主要な農作物の生育情報令和6年度第5号(令和6年8月6日現在)(福島県 8月6日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月23日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月2日)、
水稲生育診断速報2024No.6(栃木県農政部経営技術課 8月16日)、
水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第8号)(新潟県農林水産部 8月21日)、
TACS情報第8号(富山県 7月16日)、
台風10号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月23日)、
稲作情報No.20(水稲レベルアップ委員会技術普及推進部会 作成:福井県農業試験場、福井県農林中央会 8月30日)、
令和6年度作物技術普及情報第16号(松本農業農村支援センター 8月26日)、
令和6年度稲作生育診断情報No.5(滋賀県農業技術振興センター 8月23日)、
令和6年度兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)(兵庫県 8月2日)、
令和6年度病害虫発生予報第6号(岡山県 8月28日)、
水稲(中・晩生品種)及び黒大豆の高湿・少雨に対する技術対策について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当者会議 8月21日)、
2024年度‘ひめの雫’の生育状況(愛媛県農林水産研究所 8月14日)、
令和6年度病害虫発生予報7月月報(高知県病害虫防除所 8月2日)、
主な農産物の生産状況(令和6年8月22日 専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 8月26日)、
令和6年度病害虫発生予報第5号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 8月28日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(8月29日札幌管区气象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(8月29日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(8月29日气象台)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(8月29日新潟地方气象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(8月29日大阪管区气象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(8月29日広島地方气象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(8月29日高松地方气象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(8月29日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(8月29日鹿児島地方气象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(8月20日札幌管区气象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(8月20日仙台管区气象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(8月20日气象台)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(8月20日新潟地方气象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(8月20日大阪管区气象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(8月20日広島地方气象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(8月20日高松地方气象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(8月20日福岡管区气象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(8月20日鹿児島地方气象台)、

早期天候情報(8月29日14時30分)(气象台)、

エルニーニョ監視速報(Na.383)(气象台 8月9日)、

令和6年度水稲の8月15日現在における作柄概況(農林水産省 8月30日)
令和6年度病害虫発生予報第6号(農林水産省 8月7日)、
令和6年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 8月12日)